

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-730	21-010
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
<b>題名 (原題/訳)</b> Associations of Binge Drinking With the Risks of Ischemic Heart Disease and Stroke: A Study of Pooled Norwegian Health Surveys 過飲と虚血性心疾患及び脳卒中のリスクとの関連性：ノルウェー健康調査の統合研究		
<b>執筆者</b> Degerud E, Høiseith G, Mørland J, Ariansen I, Graff-Iversen S, Ystrom E, Zuccolo L, Tell GS, Næss Ø.		
<b>掲載誌</b> Am J Epidemiol. 2021 Aug 1;190(8):1592-1603. doi: 10.1093/aje/kwab063.		
キーワード	PMID	
アルコール消費、過飲、虚血性心疾患、前向き観察研究、脳卒中	33720294	
<b>要 旨</b> <p><b>目的：</b>ノルウェー健康調査データを解析し、過度な飲酒（過飲）が虚血性心疾患（IHD）及び脳卒中の発生リスクを高めるかどうかを検討した。</p> <p><b>方法：</b>ノルウェー健康調査（1987-2003年）でIHD又は脳卒中の既往のない19-89歳の飲酒者を抽出した。アルコール摂取量は一定期間の摂取量あるいは1回の平均摂取単位数を飲酒頻度に組み合わせて平均摂取量を推定し、摂取量区分は&lt;2.00、2.00-11.99、12.00-23.99、24.00-59.99g/日とした。頻繁な過飲（少なくとも月に1回、1回の機会に5単位以上）と、過飲をしないか頻繁ではない（月に1回未満）の二分変数を用いた。アウトカムデータは全国入院記録データベースとノルウェー死因登録を用いた。IHDのエンドポイントは急性心筋梗塞による初回入院、脳卒中のエンドポイントは急性脳卒中による入院又は脳卒中による死亡とした。対象者は事故、移住、死亡又は2009年12月31日まで追跡された。記述統計量の差の評価には分散分析及び<math>\chi^2</math>検定を用いた。ハザード比（HR）と95%信頼区間(95%CI)の推定にはCoxモデルを使用した。</p> <p><b>結果：</b>平均摂取量2.00-59.99g/日の飲酒者（n=44,476）において、頻繁に過飲をしている者は過飲をしない又は頻繁ではない者と比較し、IHD(HR=0.91、95%CI=0.76,1.09)及び脳卒中(HR=0.98、95%CI=0.81,1.19)のリスク増大と関連しなかった。2.00-59.99g/日の飲酒者は2.00g/日未満と比較し、頻繁な過飲(HR=0.67、95%CI=0.56,0.80)及び過飲をしない又は頻繁ではない（HR=0.75、95%CI=0.67,0.84）場合の両方でIHDのリスクが低かった。</p> <p><b>結論：</b>平均アルコール摂取量とは無関係に、頻繁な過飲とIHDおよび脳卒中の発生リスクは関連しなかった。本結果は、研究デザインの限界（非飲酒者や60.00g/日以上の飲酒者を除外、調査は1回のみで前後の飲酒習慣の変化が未確認）に照らして解釈すべきである。</p>		